

## 特別な教育的支援を要する子供の学びと切れ目ない支援体制の充実 個別の教育支援計画・個別の指導計画を活用した引継ぎについて

【指導室 特別支援教育班】

今回は、個別の教育支援計画と個別の指導計画の作成と活用について確認しました。今回は、二つの計画を活用した**引き継ぎ**について、千葉県教育委員会通知の「特別な教育的支援を必要とする幼児児童生徒の個別の教育支援計画及び個別の指導計画を活用した引継ぎについて」（令和6年2月）を基に、重要なポイントを確認します。

※二つの計画の詳細については113号参照



### Q1 『二つの計画を活用した引継ぎ』とは、どんなことを指しますか？

本人や保護者の同意を得て、学校が、進学先や進級後の担当者等に二つの計画を活用した丁寧な説明を個別に行うことを指します。

「校内での引継ぎ」では、特別支援教育コーディネーター等を中心に引継ぎ計画を立て、校内委員会等で、二つの計画を活用して、適切な指導・必要な支援等を詳細に説明し、確実に引継ぎが行われるよう留意します。

「学校種の異なる引継ぎ」では、特別支援教育コーディネーターや進路指導主事等が連携して、相手校の担当者等と連絡をとります。適切な指導や必要な支援が切れ目なく続くように、本人や保護者の同意を得て、二つの計画を活用し、情報を確実に引き継ぐと共に、**計画（写し）を進学先の担当者等に渡す**ようにします。 ※原本は保護者に返却します（113号参照）。

### Q2 『二つの計画を活用した引継ぎ』はなぜ必要なのか？また、どんな効果が期待できますか？

今まで受けていた指導・支援の内容を二つの計画に明記して引き継ぎ、学年や学校種、担当者が変わっても、継続して指導・支援を受け、生活や学習上の困難さを軽減して、安心した学校生活を送ることができるようにするために必要です。特に進学する際の課題（小1プロブレム・中1ギャップ・高1クライシス等）においては、二つの計画を活用して対応することで、年度始めをスムーズにスタートすることができるようになります。引継ぎの効果としては、以下のようなことがあげられます。

- ①適切な指導・必要な支援を切れ目なく継続的に行うことができ、本人の困難さを軽減することができる。
- ②学習面や生活面の課題等を早期に把握することで、二つの計画を早い段階で適切に立てることができる。
- ③得意なことや苦手なこと等を事前に知ることによって、本人にとって有効な活躍の場を与えることができる。
- ④課題が再び現れた時、対応を講じる際の有効な情報として役立てることができる。

### Point !

引継ぎでは、「保護者との連携」が欠かせません。日頃から保護者との連絡を密にとり、関係を大事にしながら、具体的な子供の成長について、学校全体と保護者で一緒に考えていく積み重ねが大切です。

年度末に向けて、一人一人に応じた切れ目ない支援体制充実のために、二つの計画を活用した引継ぎを行います。

